

【開催概要】

- 日時:平成30年3月26日(月) 13:30~15:40
- 場所:高松サンプール合同庁舎南官 103会議室
- 主催:インフラメンテナンス国民会議 第1回四国地方フォーラム事務局
- 参加者:官・産・学より約100名が参加
(行政) 四国四県及び四国内の地方公共団体等
(大学等)香川大学、愛媛大学、四国総合研究所
(民間企業他)建設関連企業業、コンサルタント企業等、システム関連企業 等

本フォーラムの目的

| | |
|----------------|---|
| 革新的技術開発 | <ul style="list-style-type: none">● 自治体の課題(ニーズ)に対し、民間企業等が解決策となる技術(シーズ)等を提案し、解決策等を議論する● 企業側の技術開発の新たな方向性等をオープンイノベーションの手法で議論する● 現場デモ等のマッチング調整を行う |
| 自治体支援 | <ul style="list-style-type: none">● 自治体の課題に対し、他の好事例やノウハウ、知恵やアイデアを紹介し課題解決に向けた方向性などを議論する。 |

開会挨拶 (フォーラムリーダー)



矢田部 龍一 氏
(愛媛大学教授)

- インフラメンテナンスについて民間を積極的に活用するフォーラムが平成29年度内に近畿に次いで四国において活動を開始できたことは意義深い。
- 今後の四国のインフラ維持管理に資するよう実りある議論が行われることを期待する。

本フォーラムにおける議論

本フォーラムでは次の4つの課題を設定し、以下のように議論を進めた。

- 【第1班】 **メンテナンス技術者の人材確保について**
- 【第2班】 **路面陥没等危険要因の対策とデータベース化について。**
- 【第3班】 **長寿命化を視野に入れた橋梁の維持管理上の課題について**
- 【第4班】 **除草作業における課題について**

- 1. 各班における課題のショートプレゼンテーション**
各班代表者により全体に対して、今回のテーマ設定の背景、抱えている課題等を紹介。
- 2. 班別討議**
 - 参加者各自が班毎に各々の抱える課題を共有、整理。
 - 産学官民各々が課題に関連する技術や解決策について提案
 - 自治体・他民間企業等から情報を基に紹介された技術や解決策の特徴、適用条件等を整理
 - 各参加者が今後取り組むべき事項と方針について議論、とりまとめ
- 3. 発表**
各班討議結果を全体に向けて発表

講評及び閉会挨拶(キーパーソン)



吉井 稔雄 氏
(愛媛大学教授)

- 自治体の抱える課題について、4班それぞれで課題に対する情報共有や解決策などの活発な議論が行われた。
- 今後も本フォーラムで産官学民一体となって議論を行い、ハイテクとローテクを組み合わせた四国初の新しい技術を発信に期待する。

それぞれの班別討議では以下に示す活発な議論がなされ、今後の地方フォーラムの方向性が提示された。

【第1班】 メンテナンス技術者の人材確保



自治体における技術者不足に対し、インターンシップによる新卒採用の促進、行政OBの活用などの対策が有効と考えられる。また、中途採用において、年齢条件を除外し、資格のみで募集を行うことで有能な人材を確保した事例が紹介された。このほか、人材派遣、職員のメンテナンスの実践機会の確保と研修の推進の重要性が議論された。

【第2班】 路面の危険要因の対策とデータベース化



課題に対し、予算、人員、技術の観点で議論を行った。自治体から簡易な補修工法、路面構造を把握する技術が必要などの意見があったほか、四国では上水管等の漏水が原因で舗装が損傷する事例が多いことなどの情報交換がなされた。今後、路面損傷調査への人工知能の活用などが期待できる。官民での情報共有がより一層重要となる。

【第3班】 橋梁の維持管理



ジョイント部の漏水について、完全な止水は難しいため滞水させない対策が重要との議論があった。また、自治体から対策優先順位の付け方、橋梁点検・対策時の簡易な仮設方法、水中部の点検方法などの課題が提示された。橋梁の長寿命化には日常管理・清掃が大事との意見があり、定期点検と清掃をセットで発注するアイデアが提案された。

【第4班】 除草作業における課題



現在、除草は建設業者への発注とボランティア、シルバー人材センターへの依頼で実施しているが、予算の確保と作業員の高齢化が課題である。また、除草は夏場の過酷な作業となるため、熱中症対策などの安全管理も重要である。中央分離帯の除草対策についても課題が多い。今後本フォーラムを活用し、情報交換により良い技術を探していきたい。